

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成27年8月27日(2015.8.27)

【公開番号】特開2015-44123(P2015-44123A)

【公開日】平成27年3月12日(2015.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2015-016

【出願番号】特願2014-251608(P2014-251608)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年7月13日(2015.7.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技を行う遊技機であって、

遊技領域に設けられた普通始動領域を遊技媒体が通過したことに基づいて、普通識別情報の可変表示を行う普通表示手段と、

前記普通表示手段における表示結果が所定の表示結果となったときに、第1駆動手段の駆動により遊技者にとって有利な状態に変化する普通可変入賞手段と、

前記遊技領域に設けられた特別始動領域を遊技媒体が通過したことに基づいて、特別識別情報の可変表示を行う特別表示手段と、

前記特別表示手段における表示結果が特定の表示結果となったときに、第2駆動手段の駆動により遊技者にとって有利な状態に変化する特別可変入賞手段と、

前記第1駆動手段及び前記第2駆動手段を駆動する制御を実行する駆動制御手段と、

前記特別可変入賞手段と前記普通可変入賞手段の少なくとも一方に対して不正な入賞があつたか否かを判定する可変入賞異常判定手段と、を備え、

前記駆動制御手段は、

普通可変入賞手段用駆動データ記憶領域に記憶された駆動制御時間データに基づいて普通駆動信号を前記第1駆動手段に出力し、特別可変入賞手段用駆動データ記憶領域に記憶された駆動制御時間データに基づいて特別駆動信号を前記第2駆動手段に出力する駆動信号出力処理と、

前記普通可変入賞手段を変化させる場合には前記普通可変入賞手段用駆動データ記憶領域に記憶された駆動制御時間データを読み出して前記普通駆動信号を前記第1駆動手段に出力する設定を行い、前記特別可変入賞手段を変化させる場合には前記特別可変入賞手段用駆動データ記憶領域に記憶された駆動制御時間データを読み出して前記特別駆動信号を前記第2駆動手段に出力する設定を行う出力設定処理と、を実行可能であり、

前記普通可変入賞手段と前記特別可変入賞手段とをそれぞれ独立して有利な状態に変化させる、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1) 上記目的を達成するため、本発明に係る遊技機は、

遊技を行う遊技機であって、

遊技領域に設けられた普通始動領域を遊技媒体が通過したことに基づいて、普通識別情報の可変表示を行う普通表示手段（例えば普通図柄表示器20など）と、

前記普通表示手段における表示結果が所定の表示結果（例えば普図当たり図柄など）となったときに、第1駆動手段（例えば第2始動ロソレノイドなど）の駆動により遊技者にとって有利な状態（例えば開放状態など）に変化する普通可変入賞手段（例えば第2始動入賞口など）と、

前記遊技領域に設けられた特別始動領域を遊技媒体が通過したことに基づいて、特別識別情報の可変表示を行う特別表示手段（例えば第1、第2特別図柄表示装置4A、4Bなど）と、

前記特別表示手段における表示結果が特定の表示結果（例えば大当たり図柄となる特別図柄など）となったときに、第2駆動手段（例えば上大入賞ロソレノイドや下大入賞ロソレノイドなど）の駆動により遊技者にとって有利な状態（例えば開放状態など）に変化する特別可変入賞手段（例えば上入賞口や下大入賞口など）と、

前記第1駆動手段及び前記第2駆動手段を駆動する制御を実行する駆動制御手段（例えば図30に示すソレノイド制御処理や図32に示す電動役物開放パターン処理などを実行するCPU103など）と、前記特別可変入賞手段と前記普通可変入賞手段の少なくとも一方に対して不正な入賞があったか否かを判定する可変入賞異常判定手段と、を備え、

前記駆動制御手段は、

普通可変入賞手段用駆動データ記憶領域（例えば普電開放ワークテーブルなど）に記憶された駆動制御時間データに基づいて普通駆動信号を前記第1駆動手段に出力し、特別可変入賞手段用駆動データ記憶領域（例えば大入賞口開放前ワークテーブルや小当たり時ワークテーブルなど）に記憶された駆動制御時間データに基づいて特別駆動信号を前記第2駆動手段に出力する駆動信号出力処理（例えば図32に示す電動役物開放パターン処理など）と、

前記普通可変入賞手段を変化させる場合には前記普通可変入賞手段用駆動データ記憶領域に記憶された駆動制御時間データを読み出して前記普通駆動信号を前記第1駆動手段に出力する設定を行い、前記特別可変入賞手段を変化させる場合には前記特別可変入賞手段用駆動データ記憶領域に記憶された駆動制御時間データを読み出して前記特別駆動信号を前記第2駆動手段に出力する設定を行う出力設定処理（例えばステップS942の処理など）と、を実行可能であり、

前記普通可変入賞手段と前記特別可変入賞手段とをそれぞれ独立して有利な状態に変化させる、

ことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

このような構成によれば、プログラム容量を削減することができる。